

「娘たちと舞台に」10年越しの夢叶う



みの〜れ住民劇団「演劇ファミリーMyu」

よし い さと み
吉井 伶美さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.188

初夏の日差しを浴びて大きく育った葉っぱは、木陰をつくって人に直接あたる日差しを減らしてくれそうです。みの〜れの大きな森には心地よい風が吹き、四季折々の自然の舞台が設置され、楽しむことができます。今回は、みの〜れ住民劇団「演劇ファミリーMyu」のメンバーで「さとみん」の愛称で親しまれる笠間市にお住まいの吉井伶美(さとみ)さん取材します。

夫の後押しで 得られた場所

千葉市出身。小学4年生のときに市民ミュージカルに参加して、地元ミュージカル劇団に所属し、18歳まで舞台に立ち続けました。現在は笠間市出身の夫と、愛里さん(小6)、桜月さん(小4)、千夏さん(小3)の三姉妹に囲まれ、理学療法士として働きながら、娘たちと一緒に大好きなMyuに参加しています。

もともとみの〜れ10歳記念ミュージカルに参加する予定でしたが、次女を妊娠したため降板。あれから10年。三姉妹がみの〜れ演劇ワークショップに参加し、演じることが好きだと確信したと同時に、客席で見守る自分がうずうずしていることに気づきました。「もう一度舞台に立ちたい」。でも、

家族や仕事のことを考え、迷っていると、夫が「やってみたら」と背中を押してくれて、かつて情熱を注いだ舞台に娘たちと一緒に立つという夢が叶いました。その舞台が、みの〜れ20歳記念住民ミュージカル「黄色い袋と魔法のトンネル」でした。

娘たちと4人で演じた役は、主人公が魔法のトンネルをくぐって迷い込んだ先で出会う、不思議な「しいたけ家族」。「同じ舞台に立てるだけでも嬉しいことなのに、4人で一緒に演じられて本当に幸せです」と伶美さん。稽古に通う車の中でもみんなセリフや歌を練習したり、踊りが得意な長女に家でダンスを教わったり。伶美さんが体調を崩して稽古を休んだとき、Myuのみんなに助けってもらいながらも、娘たちがしつかり稽古している姿に、成長を感じるようになってきたそう。

伶美さんは遠州池の若殿様の家来役も務め、10代から80代までのキャスト仲間と一緒に演じ切りました。「カーテンコールで大号泣しちゃいました(笑)。夫も、キラしたまなぎしで演じている娘たちの姿に感動したようです」。

Myuに参加するようになってから、より夫に相談しやすくなったという吉井さん。子どもたちも協力してくれています。「今後いろいろな作品に家族で参加できたらいいですね。みの〜れはみんなの好きがつかるところ。気の合う仲間たちと出会えてあげたいと思っています」と笑顔で話してくれました。

笑顔がとても素敵な吉井さん。可愛らしい三姉妹と一緒に、またMyuの舞台で会える日を楽しみにしています。

(藤田佐知子)